

令和3年度和歌山県CSマイスターミニ座談会（西牟婁会場①）

日時：令和3年12月15日（水）14:00-16:00
会場：田辺市東部公民館（田辺市立東陽中学校併設）
参加者：会場15名 オンライン10名



うえの 繁夫 氏
上富田町生馬公民館長



元県立学校長
おの 俊一 氏
かつらぎ町妙寺公民館長

「2人の館長対談 マイスターの専門分野を掘り下げてみよう」

どうして公民館長になられたのですか？



退職後、公民館運営委員をしたのがきっかけ。前館長の「ちょっと話があるんだけど」という誘いに乗ってしまった笑。館長就任後ほどなくしてコロナ禍に突入したので、これまでの常識が通じない。試行錯誤が続いている。

小中高校のPTA活動をきっかけに、公民館運営委員をしたのがきっかけ。館長になって10年以上になる。PTAも館長も「名前だけ」の受け方はしなくなかった。コロナ禍でも試行錯誤しながら事業を進めている。



館長就任前と就任後、ご自身の中で変化はありますか？



退職して初めて公民館に関わることになった。地域の人との交流の幅が広がった。「1日10人と会話すると健康になる」という話があるが、公民館にいとあつという間に達成する。集いあい、触れあい、学びあい、結びあうの理念そのものを感じる。

館長とは別に建築業という本業がある。就任当初は2足のわらじはしんどかった。私自身が県外から来た人間ということもあって、地域に溶け込もうとしんどかった。今はたくさんの方が応援してくれる。ボランティアが趣味のようになってきた。



公民館にテレビ取材が来ることになりました。何を紹介しますか？



①公民館講座

年に1～2回だった講座をコロナ禍だからこそ増やした。講師は、サークル関係者や地域の方など「ちょっと特技をもった人」をお願いしている。公民館で地域人材の循環が始まった。私も全ての講座に「生徒」として参加している。

②竹灯籠の会

会場の竹灯籠を見て欲しい。これは出来上がった作品だが、作成過程において、地元の小中高校生、役場の若手有志職員そして地域の方の交流ができた。子供達も出番があれば頑張れる。普段は公民館に大切に飾っている。

①寺子屋教室

毎週水曜日の放課後に実施する「寺子屋教室」。「一字一字丁寧に書く時間が欲しい」という学校の願いと、地域で子供に関わる場を設けたいという公民館の願いが一致して実施。10年以上続く教室となっている。

②おうまのひろば

未就園児と保護者の居場所として、毎週水曜日の午前中に和室を開放。手作りのおもちゃと元保育士の方々と自由に過ごす時間。口コミで広がり、今では校区外からの参加もある。こちらも10年以上続く行事となっている。



館長にとって、公民館主事さんや公民館運営委員さんはどんな存在ですか？



うちには素敵な主事が2人もいる。館長よりも、主事の方が公民館の顔。運営委員さんも協力者であり、理解者。大きな行事になればなるほど、助けてくれる存在。そして、口コミ広報の発信者だと思っている。

館長と指導員と主事の3人は、チームだと思っている。誰からでも提案できて発信できる関係。運営委員は毎年数人が入れ替わる。年度の初めには、昨年度行事をまとめた動画見て、公民館の目的を共有するようにしている。



会場から質問はないですか？

お二人の館長が、これから特に気をつけたいことは何ですか？



1つは感染症対策。もう1つは、子供に「ナナメの関係」に出会わせること。昔は当たり前であった環境を作り出していきたい。

コロナの感染も怖いですが、都会のような「無関心」が広がらないか心配。もっと多くの地域の人に関わってもらいたい。仕掛けを作っていきたい。



オンラインの方で質問ないですか？

過疎高齢化の地域で1人主事をしています。何かアドバイスはありますか？



主事さん自身が興味のあることから取り組んでみては？音楽や手芸、そこから生まれるコミュニケーションもあるかも。

事業や行事でなくても「お茶飲みにきてよ」から始めてもいいのでは？寄りやすい居場所になることが大事。無理した打ち上げ花火では続かないよ。



最後にメッセージをいただけますか？



まだコロナ禍にあって、以前のような多くの人が集まる行事がイメージしにくくなった。それでも人と人がふれあうことの温かさだけは提供し続けたい。「妙寺公民館の行事であれば、会場費は結構ですよ」と言ってくれたこともあった。動いたら何かが変わる。良い出会いもある。頑張っていきたい。

10年以上続いてきた行事であっても「コロナのこともあるし、この行事もうそろそろ止めたら」という声を聞くのが恐ろしい。子供は毎年変わるし、日々成長もする。館長1人が1本の木として頑張るのではなく、地域で「木の束」となってやっていきたい。



まとめにかえて（参加者の思い）

・大浦館長の「地域と関わる方が、学校よりも成長できるのでは？」上羽館長の「地域に恩返しをしたい」のひと言から始まった今日の座談会、素敵でした。どちらも子供の成長に寄り添った提案や企画が素敵です。

（お二人の人柄が伝わりましたね。by主催者）

・私は上富田町の中学校で過ごした3年間が一番印象に、そして思い出に残っています。その理由が今日分かりました。お二人の館長のような大人になって、いつか地域に恩返ししたいです。

（その気持ちがもう既に恩返しになってますよ。by主催者）

・きのくにコミュニティスクールの和歌山県がめざす子供像の1つに「ふるさとに愛着を持てる子供」という項目がある。そういう子供を育てるために、お二人の館長のように地域に愛着を持った大人の存在と、館長に影響を受けて育つ大人の存在が必要。「子供任せ」ではなく大人も共に育つことが必要であると、改めて思い直しました。

（同感です。一番大事なこともかもしれませんね。by主催者）